

# 環境と調和のとれた家畜生産活動を 確保するための規範の策定について

## - 補足資料 -

平成16年12月  
農林水産省  
生産局畜産部

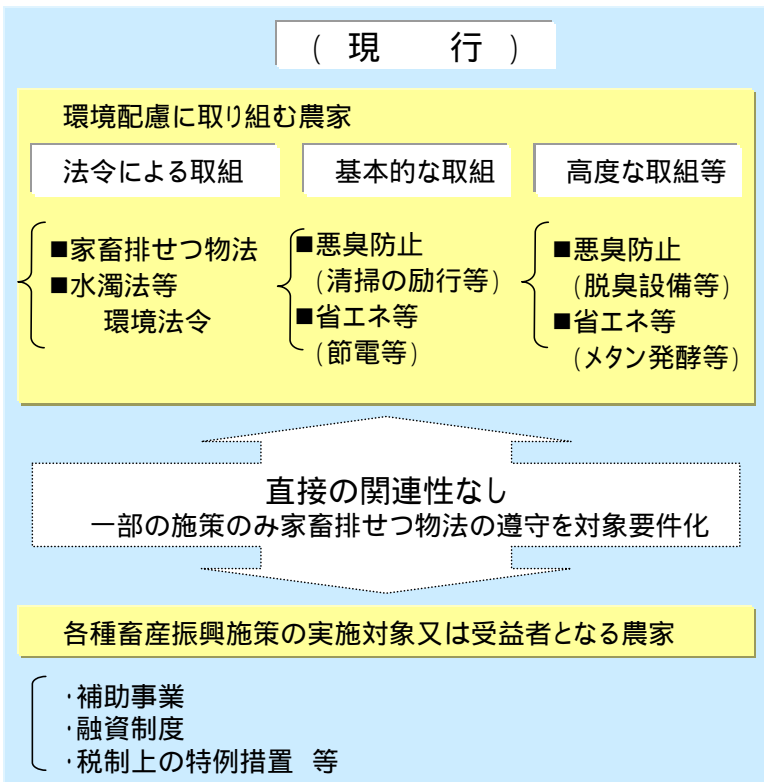
# 1. 環境規範の基本的な考え方について

畜産経営における環境配慮の取組には、法令に規定されているもの、基本的なもの(清掃の励行等)、その他の高度又は特殊なもの(特別の機器導入等)、という3つのレベルが存在。

環境規範は、農業者に対し法令等の一律の規制によって取組の実施を求めるものではなく、農家が各種畜産振興施策の実施対象又は受益者となる場合について、当該農家に求められる取組(上記 及び )を明確化するものといえる。

通常の営農行為の中で十分に取組が可能なものであって、農業者に対し高いハードルを設けるという趣旨・考え方ではない。

環境規範の策定(16年度)と導入(17年度以降)のイメージ  
- 環境と調和のとれた家畜生産活動規範(仮称)の例 -



環境規範を策定

考え方必要性についての十分な周知



## (参考) 環境規範のポイントと具体的な取組内容の例

作物生産活動規範に係る部分は、第2回「環境と調和のとれた作物生産の確保に関する懇談会」資料を基に作成。  
 家畜生産活動規範に係る部分は、第8回「畜産企画部会」資料を修正・加筆。

具体的な取組内容の例(「悪臭・害虫の発生を防止・低減する取組の励行」の場合)

家畜排せつ物の処理・保管用施設における処理容量に応じた稼働と施設内外の清掃の励行に努める。  
 畜舎におけるふん尿の早期搬出と清掃の励行に努める。

### 家畜生産活動規範のポイント

実行状況について定期的に農業者が自己点検

(1) 家畜排せつ物法の遵守	✓
(2) 悪臭・害虫の発生を防止・低減する取組の励行	✓
(3) 家畜排せつ物の利活用の推進	✓
(4) 環境関連法規への適切な対応	✓
(5) エネルギーの節減	✓
(6) 新たな知見・情報の収集	✓

家畜排せつ物法では、管理基準の適用対象農家に対し、家畜排せつ物の年間発生量等に関する記録が義務付けられている。

(国が基本事項を提示、都道府県等は必要に応じて適宜事項を追加することも可能)

### 作物生産活動規範のポイント

実行状況について定期的に農業者が自己点検

(1) 土づくりの励行	✓
(2) 適切で効果的な施肥	✓
(3) 適切で効果的な防除	✓
(4) 廃棄物の適正な処理・利用	✓
(5) エネルギーの節減	✓
(6) 新たな知見・情報の収集	✓
(7) 生産情報の保存	✓

(国が基本事項を提示、都道府県等は必要に応じて適宜事項を追加することも可能)

具体的な取組内容の例(「家畜排せつ物の利活用の推進」の場合)

...(中略)...家畜排せつ物を肥料として...(中略)...適切に利用できる場合には、...(中略)...たい肥化、液肥化、スラリー処理又は保管等を行い、肥料として利用するよう努める。

...(中略)...肥料としての利用が困難な場合は、炭化、焼却、汚水浄化等、適切な方法により処理を行う。

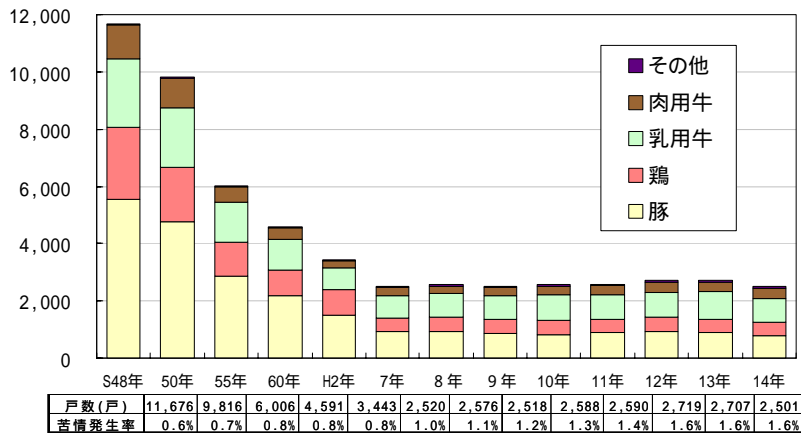
## 2. 畜産業に伴う環境問題について

苦情の発生件数及び発生率はここ数年横ばい。内容は悪臭、水質汚濁が大部分。地域では未だ深刻な環境問題が発生。家畜排せつ物は様々な環境問題の発生要因の1つ。畜産業は従来から環境法令の規制対象とされてきた経緯。

家畜排せつ物の適正管理という観点から環境と畜産の両立、さらには循環型農業の推進を図るため、家畜排せつ物法が成立（16年11月1日から完全施行）。今後とも、適正管理の持続性確保が重要。

### 畜産経営に起因した苦情発生状況

年次別苦情発生戸数



資料：生産局畜産部調べ

注1：戸数は住民から地方公共団体へ届けられたものである。注2：苦情発生率＝苦情発生戸数／畜産農家戸数

### 苦情の内容

(単位：%)

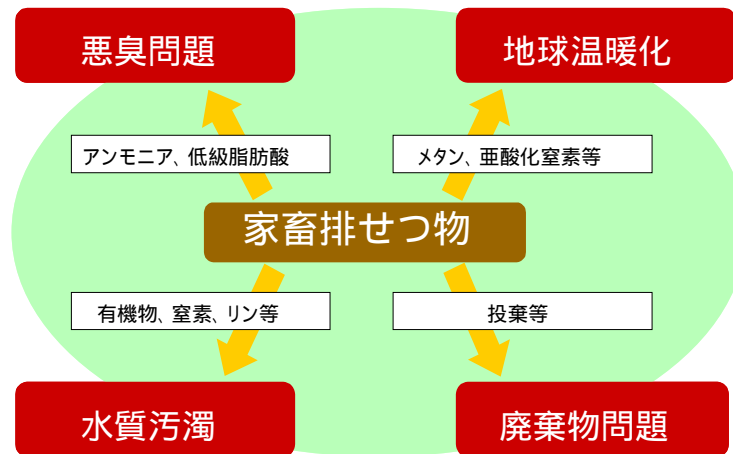
区分	悪臭関連	水質汚濁関連	害虫発生	その他	計
乳用牛	34.0	29.0	21.5	39.4	32.9
肉用牛	14.2	17.0	9.9	11.6	14.9
豚	32.4	43.9	11.6	20.7	31.4
鶏	17.3	8.6	54.7	21.7	18.4
その他	2.0	1.5	2.2	6.6	2.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
構成比率	56.7	29.9	6.4	7.0	

資料：生産局畜産部調べ、

注1：構成比率とは、苦情発生件数全体に占める各苦情内容の割合である。

2：その他は、ふん尿の流出、騒音等である。

### 家畜排せつ物による環境リスクと環境問題との関わり



注) 図では4つの代表的な環境問題との関わりについて示したが、公衆衛生面、酸性雨、生物多様性などとの関わりが指摘される場合もある。